



国立研究開発法人
水産研究・教育機構

プレスリリース

2026年7月28日

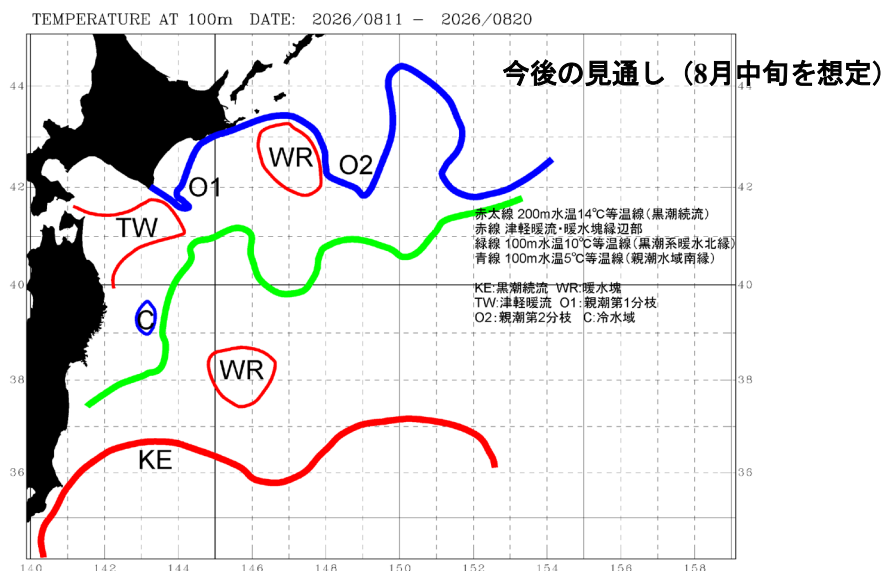
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2026年度 第3回 東北海区海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2026年8月～2026年9月上旬)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限はやや北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の南限はかなり北偏で推移し、三陸近海に冷水域が残る。
- ・ 親潮第2分枝の南限は極めて北偏で推移する。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：海洋環境部（塩釜） 奥西、笥

電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

2026年度第3回東北海区海況予報

《今後の見通し（2026年8月～2026年9月上旬）》

- (1) 近海の黒潮続流の北限はやや北偏（北緯 $36^{\circ}30'$ ～ 37° ）で推移する。
- (2) 近海の黒潮系暖水の北限は極めて北偏（北緯 $40^{\circ}30'$ 以北）で推移する。
- (3) 三陸近海の暖水塊は消滅する。下北半島沖の暖水塊は北東に移動する。三陸沖の暖水塊は西進する。
- (4) 親潮第1分枝の南限はかなり北偏（北緯 $41^{\circ}30'$ ～ 42° ）で推移する。三陸近海に冷水域が残る。
- (5) 親潮第2分枝の南限は極めて北偏（北緯 41° 以北）で推移する。
- (6) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しは極めて強勢（東経 $143^{\circ}40'$ 以東）で推移する。

《海況の経過（2026年1月～2026年6月）の特徴》

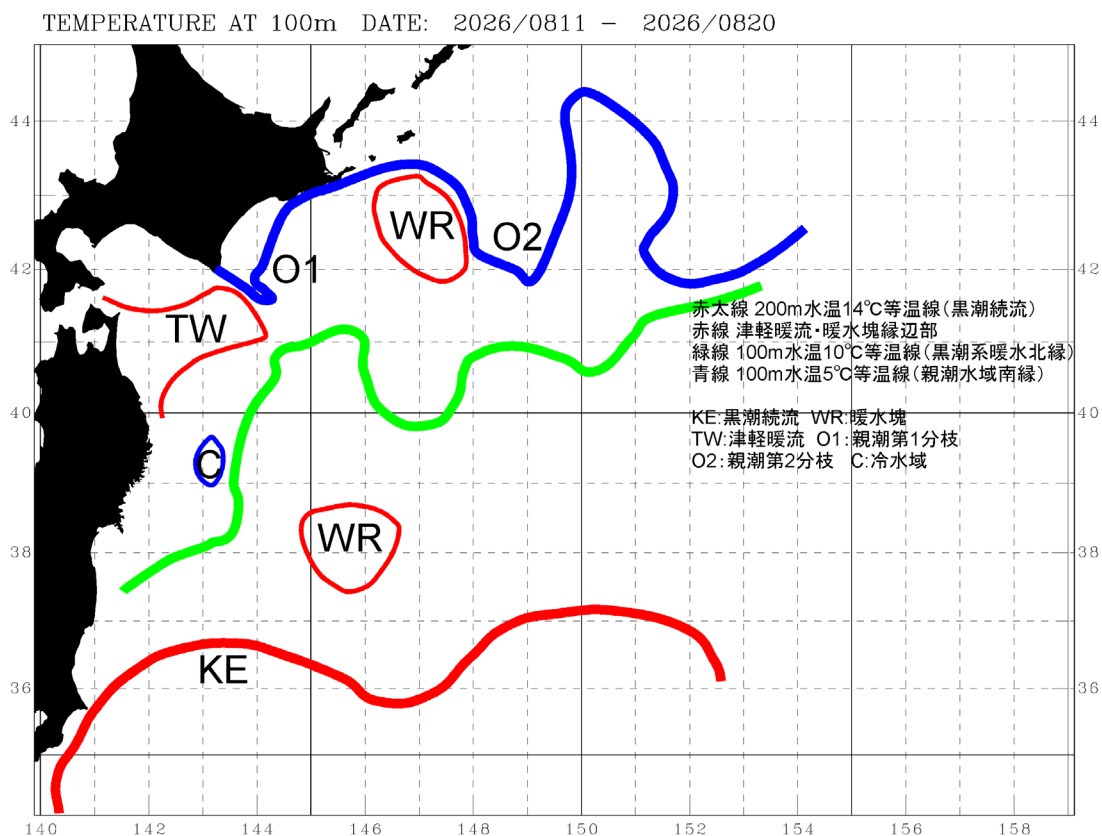
- (1) 近海の黒潮続流の北限は平年並み～かなり北偏（北緯 36° ～ $37^{\circ}30'$ ）で推移した。
- (2) 近海の黒潮系暖水の北限はやや南偏～極めて北偏（北緯 $37^{\circ}20'$ ～ $41^{\circ}40'$ ）で推移した。
- (3) 2025年4月に三陸はるか沖に形成された暖水塊は西進した。4月に下北半島沖に形成された暖水塊は停滞した。
4月に三陸はるか沖に形成された暖水塊は西進した。
- (4) 親潮第1分枝の南限はやや南偏～極めて北偏（北緯 $38^{\circ}30'$ ～ $42^{\circ}20'$ ）で推移した。
- (5) 親潮第2分枝の南限はやや南偏～極めて北偏（北緯 $39^{\circ}10'$ ～ $41^{\circ}50'$ ）で推移した。
- (6) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しはかなり弱勢～極めて強勢（東経 142° ～ $143^{\circ}50'$ ）で推移した。

《現況（2026年7月上旬）の特徴》

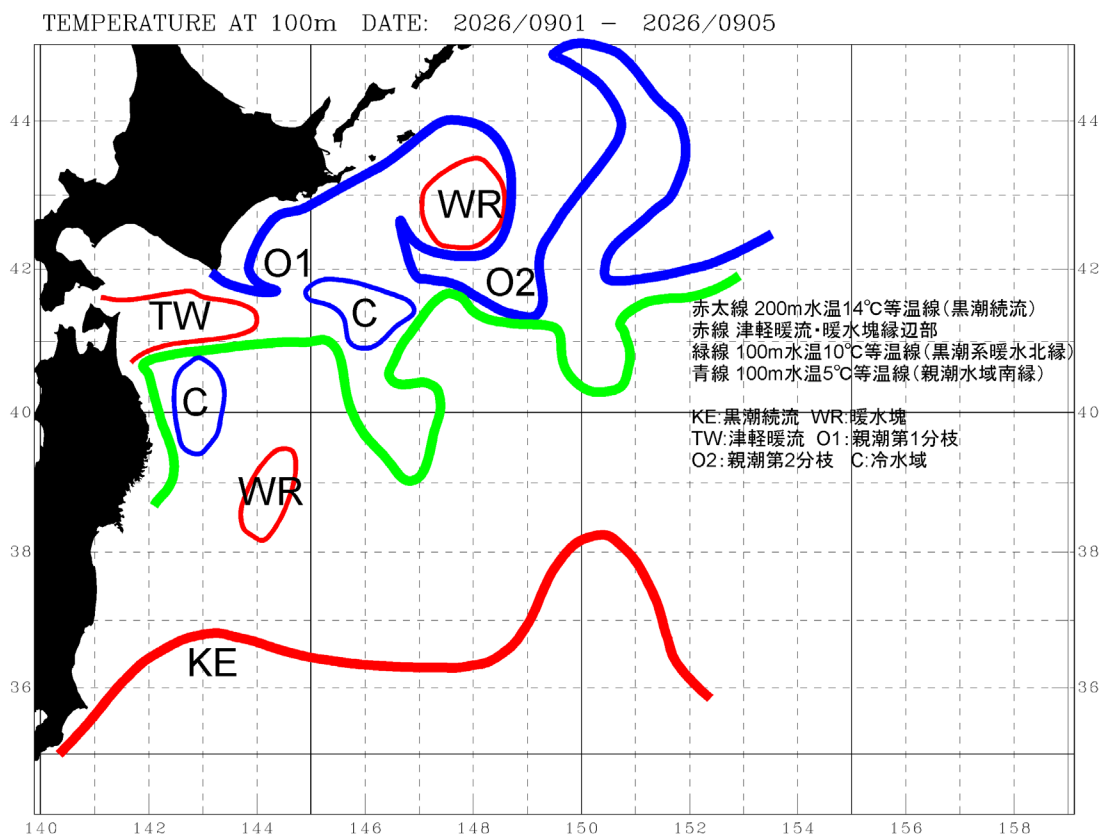
- (1) 近海の黒潮続流の北限はやや北偏（北緯 $36^{\circ}40'$ ）である。
- (2) 近海の黒潮系暖水の北限はやや北偏（北緯 $39^{\circ}50'$ ）である。
- (3) 暖水塊が三陸近海70km、下北半島沖400km、三陸沖520kmにある。
- (4) 親潮第1分枝の南限はやや南偏（北緯 $38^{\circ}50'$ ）である。三陸近海に冷水域がある。
- (5) 親潮第2分枝の南限は極めて北偏（北緯 $41^{\circ}50'$ ）である。
- (6) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しはかなり強勢（東経 $143^{\circ}30'$ ）である。

（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMSⅡシステムを用いた。FRA-ROMSⅡは、我が国周辺海域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

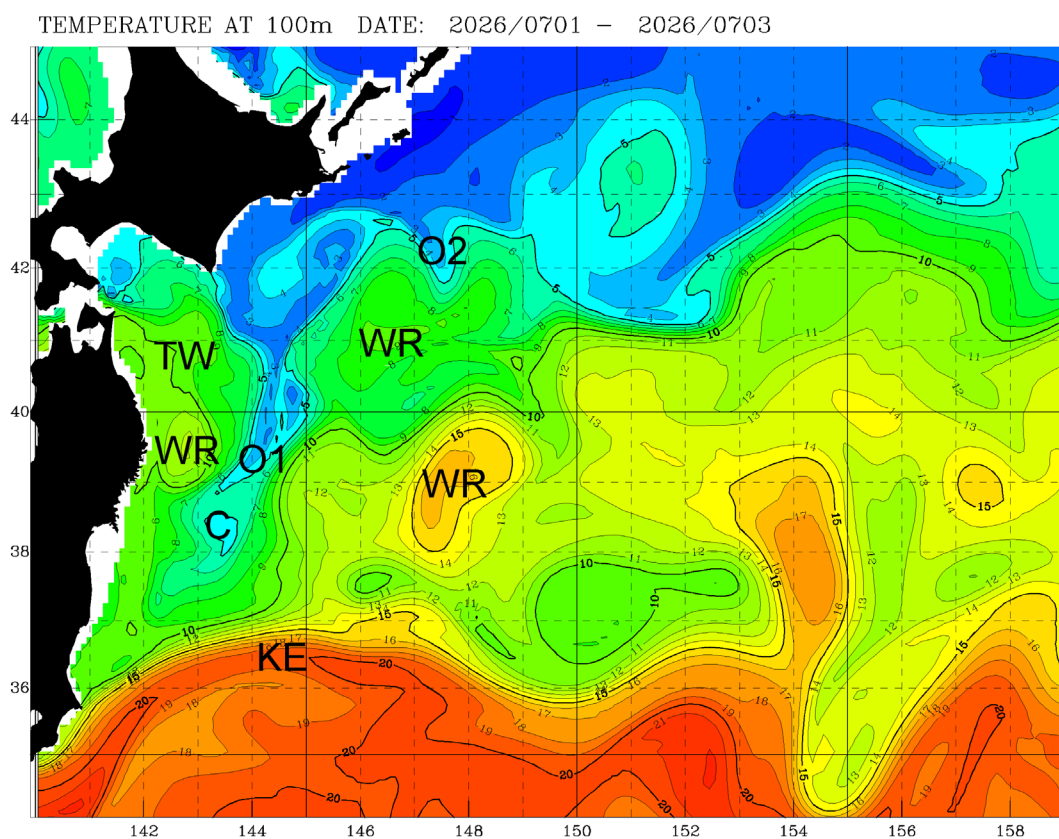
8月中旬予測水温分布図



9月上旬予測水温分布図



7月上旬現況水温分布図（100m深）



図中の記号はそれぞれ01が親潮第1分枝、02が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
岩手県水産技術センター	
宮城県水産技術総合センター	
福島県水産海洋研究センター	
茨城県水産試験場	